

ある日常の1日

音刃

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

この連載が続くかわかない

目次

| | |
|----------------|---|
| こんな夢見て楽しみたい | 1 |
| さて、前回から一夜を明かそう | 6 |

こんな夢見て楽しみたい

さて、帰ったらどうしようかそれは後で考えるか

音刃「ただいま。」

あれ、誰もいないのかならピアノのどこでも行くか

ピアノ室付近に行くと音が聞こえだしたあれ先着がいた

真姫だ

音刃「真姫帰ってたのか。」

真姫「あら、帰ってたの？」

音刃「うん、今な」

やっぱり防音室は外の音が聞こえにくいんだなまあピアノ弾いてたのも有るだろう

けど

真姫「じゃあ一緒に、歌いませよ」

音刃「そうだな。そうしよう。」

くくく三十分後くくく

音刃「楽しかったー。」

真姫「そうね。」

真姫は優しく微笑んだ。可愛いなやつぱり

誰かに見られてるなまあほっておこうどうせなんもないし

真姫「またなんかうた、」

その時だった

？「あははははそこ胸じゃなくて脇腹だつてあはははやめてあはははたすけてくつふふふ」

なんツー気持ち悪い声あげてんだよっしーのやつ覗いてたのはあいつか

真姫「外がうるさいわね」

音刃「一回見にいこ」

真姫「そうね」

ガチャ

音刃「希!!わしわしやったのか、」

希「ああおつたんや」

嘘くせーなどと考えつつ

音刃「いたよでこれは」

希「よっしーを成敗してたんや」

成敗つてよっしー柄のぞき見してたのか

? 「うるさなあー」

音刃 「会長帰つてたのか? そういやリビング行ってない」

真姫 「会長起きたのね。」

希 「会長が起きたのはわかったからええけどよっしーどうするん?」

そういやそれこそ忘れてたとなると

音刃 「会長手伝つてくれこいつ部屋まで運ぶぞ」

会長 「わかった」

くくくよっしーの部屋くくく

音刃 「よしこれで行けるな」

会長 「そうだね服着替えさせた方がいいかな?」

音刃 「いやいいだろほつといても」

会長 「それもそうだね」

音刃 「もう用事ねーし行くかりビング」

くくくリビングくくく

希 「どないやったん?」

音刃 「状態は知らん。おいてきたただけだ」

凜「おいてきたってひどい言い方だニヤ」

音刃「そうか？　そういうやそれよりそろそろ飯なのかいよいよがする」

真姫「そうね」

会長「なんだろ？」

凜「グラタンとかって言ってたよ」

すると玄関から

ガチャ

じゅんぷらのんにこ「ただいま」

リビング組「おかえり」

？「ご飯ができたよー」

この声はキッチンからだな

音刃「さて、行きますか」

くくくキッチンくくく

花陽「ご飯ができたよ」

会長「そうみたいだね」

とも「話してないで運んで欲しいんだけど」

うわともを見ると両手にグラタンの板が大量に持たれていた

ことり「ごめんなさい今手伝います」

つて言いながらエプロンをつけていた行動早いな

真姫「仕方ないわねえ」

音刃「真姫はサラダのボウルとかを俺と会長で取りに行こ

」

危なかつた料理が手抜きになるところだ

真姫「あら、そう」

と言いながら準備を進めた

さて、前回から一夜を明かそう

? 「……て……きて……起きて朝よあさ」

誰かが俺を起こしてるのか? 声が聞こえる優しい声が

そしてふっと目が覚めた

真姫「おはよう。よく寝てたみたいだけど大丈夫なの?」

そういや昨日の晩は寝るまで何をしてたっけ? 全く思い出せない

音刃「なあ真姫俺は昨日の晩何してたっけ?」

真姫は驚いた顔をした後顔の頬を赤らめた

真姫「な、なにつてそ、その」

音刃「その」

俺には全く理解が出来ない

真姫「その、あれよ私とやるのって」

まさか! と心の中で考えてしまった

音刃「ごめんちゃんと責任取るから」

真姫「えっ、何言ってるの? 作曲作りをしてたんでしょ?」

やつてしまったまた早とちりを、

真姫「もうしつかりしてよね。ご飯できてるから先に下に降りとくわね」

完全に真姫の顔が赤く染まっていたこれはやつてしまった

~~~~茶の間~~~~

皆「いただきつゴチソウサマデシタマーす」

相変わらず朝は誰かがごちそうさま言つてるよなまあそんなことはいい取り敢えず朝のあの件だと考えて居ると

たいへー「どうしたんだ真姫と何かあったみたいだけど」

バレたやつぱり顔に出てるのだろうか？諦めて話そう

音刃「いやそれがカクカクシカジカで」

たいへー「あはははははそんな事があったのか朝から面白い発想だ」

音刃「いや今の雰囲気笑い事じゃねーだろ」

希「うちが試したるか？真姫ちゃんがない考えてるか」

そうだな今回は希に頼んで話を付けるか

音刃「お願いするよ」

希「ウチにまかしとき」

取り敢えず真姫との件は後にしよう知らない間に花見に行く話になつてるししかも

なんかよっしーが人を探しに行ったのかどうせあの二人だろまあほって置いて大丈夫  
だろ

会長 「ところで音刃真姫から聞いたんだけど」

音刃 「またその話が今日二回目だぞ」

会長 「そんな事考えてたなんて思わなかったから」

自分の顔が赤くなってるような気がした

音刃 「し、仕方ねーだろ朝頭回らないんだから」

会長 「えー。仕方ないの一言で済ますとかいいわけですかー？」（嫌味風に）

ちっ自分が一番わかっているとところを突かれた

音刃 「もう分かったから花見の時に何とかするか」

と言つてその話を無理矢理切るために言った

会長 「楽しみにしてるね」

と言つて会長はどこかに行った。くそあそこまで突かれるとは思ってなかった。

穂乃果 「音刃は花見行くよね？」

凜 「凜は行くニヤー」

こんだけいくなら行くしかないだろうな

しかたない

音刃「俺も行くよ」

穂乃果「じゃあ決まりだね。早く準備してね」

音刃「わかったよ」

と言いながら準備を始めようとする。でも花見も偶には悪くなさそうだ。